【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(　桑名西高等学校　　)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		校訓「自主・創造」のもと、地域・関係機関等との協働・交流や探究活動を通して自己肯定感を高め、たくましく生きる力と他者への思いやりを持った自律した学習者たる生徒が育つ学校を目指します。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○自己肯定感や責任感を高め、基本的な生活習慣を身につけた自律的な生徒 探究活動や日常生活を通じて、自己肯定感や責任感を養い、たくましく自律した生活態度を身につけます。 ○学力と人間性を兼ね備え、主体的・協働的に取り組む生徒 学習活動や特別活動、部活動などに自主的・協働的に取り組み、社会で必要とされる確かな学力と、思いやりや配慮といった豊かな人間性を育みます。 ○自分の進路を主体的に選択し、将来地域や社会に貢献できる生徒 自らの興味や適性、進学・就職の意義、社会貢献について考え、主体的に進路を決定し、将来地域や社会に貢献する姿勢を育てます。
	ありたい教職員の姿	○学校の理念や目標を共有し、協力して教育活動に取り組む教職員 学校の理念や目標の実現に向けて、自らの役割と使命を自覚し、教職員同士が協力して取り組む姿。 ○生徒の主体的な学びを支え、教育活動の工夫と改善に努める教職員 すべての教育活動において、生徒が知る喜びや学ぶ楽しさを実感し、思考力・判断力・表現力を育めるよう、主体的な学びを促す工夫と改善を続ける姿。 ○変化の激しい社会のニーズを敏感に捉え、自己研鑽を続けて成長する教職員 多様化・高度化する社会の変化や教育課題に対応するため、自ら学び続け、知識・技能・人間性を磨き、自身の特技を持って前向きで充実した日々を送る教職員の姿。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜生徒＞ ・基礎基本から様々な進路希望に対応した内容まで、興味関心を喚起する授業。 ・自分の力を伸ばし進路希望が実現できるきめ細かいサポート・支援。 ・安心して豊かな学校生活を送るための教育環境と、学校行事、生徒会活動、部活動の充実。 ＜保護者＞ ・基礎学力の定着及び学力伸長と進路希望実現に向けた学習サポート・進路サポート・生徒サポートの充実。 ・多様化した入試制度への適切な対応。 ・学校行事や部活動等をとおした豊かな人間性の育成。安全・安心な教育環境。 ＜地域＞ ・学力、体力、コミュニケーション力を備え、将来地域社会で主体的に活躍できる人材育成。 ・授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした開かれた学校。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜家庭＞ 学力伸長および進路希望実現や、豊かな人間性の育成に向けての教職員による支援と十分な情報提供。 ＜中学校＞ 本校の特色や生徒の学校生活の様子、進路状況などの情報提供。 ＜地域＞ 学校行事等の公開。地域活性化のために地域行事や防災活動等への生徒の参画。	＜家庭＞ 学校教育への理解と協力。基本的な生活習慣の確立や進路希望実現に向けた支援。 ＜中学校＞ 基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた相互協力。情報交換と協力・支援。 ＜地域＞ 学校の教育活動や生徒が生き方や働き方を考えるための協力・支援。

(3)前年度の学校関係者評価など		○学校は丁寧に指導している。 ○不登校生徒への指導、いじめ対応、自転車乗車マナーなど今年度に見えてきた課題に対して、次年度注力してほしい。 ○成果指標である月４５時間以上、年間３６０時間以上の人数は、学校の現状との著しい差異があるので、現実的な数値に改善すべき。
(4)現状と課題	教育活動	○生徒の主体性や探究心の育成、自己肯定感の向上を目指して、2024 年度から導入した地域・業界・企業の協力のもとに取り組む探究学習プログラム（Locus PROGRAM：株式会社マイナビ）等を活用する。 ○大学・短大・専門学校・就職等、多様な進路を希望する生徒に対応するための技能が教職員に求められている。 ○第一志望合格に向けて粘り強く最後まで学習を支援する体制を強化しており、サポート方法やキャリアガイダンス体制の充実が必要である。
	学校運営等	○今後さらに進む少子化に備えて、校内の組織改革が求められている。 ○私学授業料の無償化による影響等を踏まえて、本校の更なる特色化を進める必要がある。 ○教職員の過重労働改善のために、業務の精選、効率化を進めるとともに、休暇取得の促進や定時退校日の遵守などに取り組み、教職員のより良いライフワークバランスの確立を目指す必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○目標達成のための確かな学力の獲得を目指し、適切な科目・単位数を各学年に配置します。２学年から進路希望によりコース選択して学習します。またその実践のため、教員一人ひとりがサポートスキルの向上を図ります。 ○各学年とも進学希望者を選抜して修学クラスを１学級設置します。１、２学年の修学クラスでは、他の学級より２時間分週授業数が多い（週３３時間）カリキュラムを編成して、進路希望の実現に向け支援します。 ○地域住民・関係機関との地域連携活動を取り入れ、様々な世代の方との交流を通してコミュニケーション能力を育みます。（防災ＩＮくわにし、竹の十三夜、桑西カフェ等） ○部活動や資格取得を奨励し、各自のキャリア形成を積極的に支援します。 ○命を大切にし、自己肯定感を高め、一人ひとりが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進します。
学校運営等	○授業内容や評価方法について教科会での活発な議論を推進するとともに、学校全体として学力向上や授業力向上に向けた新たな企画や改善策を積極的に提案し合い実行できる体制を構築します。 ○目的意識の共有化を図り、組織力を向上させるとともに、地域の多様な関係者と連携することなどにより、有為な社会人を育成するために最適な教育環境を創造します。 ○総勤務時間の縮減など、教職員が健康で意欲的に働くことができる職場環境づくりに取り組みます。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○日々の授業を誠実に受講でき、確かな学力を身につけたいと願い、自ら勉学に主体的・意欲的に取り組む意志のある生徒 ○「知・徳・体」ともにバランスよい成長をめざし、積極的に特別活動や部活動に取り組み意欲のある生徒 ○広い視野を持ち多様な資格にチャレンジするなど自身のキャリアアップに努力できる生徒

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習の充実	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、継続的に授業改善を実践し、生徒たちの資質・能力を育成する。 (2)教職員が、授業に必要なICT活用のスキルを校内研修や教員間の情報共有を通じて啓発し、生徒の授業への興味・関心を高める。 (3) 各教科と連携し、図書館を活用した学びを促す。 【活動指標】 ・全ての教科で、課題の発見・解決や習得・活用・探究の学習プロセスを意識した授業を実施。 ・定期的に教科会議を開催し、生徒の学習状況の把握、ICT活用した実践事案など、情報共有に努める。 ・生徒学校満足度アンケート、教員向け授業実践アンケートの実施。 ・教科別図書館購入リクエストアンケートを実施。授業に連携した展示コーナーを充実。 ・主権者として社会の中で自立し、地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担う力を身につけるために主権者教育を充実する。 【成果指標】 ・主体的に授業に参加したと回答した生徒の割合 ８５%以上（昨年度実績８９．０%） ・授業等でICT活用に不安があると回答した教員の割合 ４０%以下（６６.7%） ・授業等での図書館利用 ６０時間（１２０時間） ・授業及び総合的な探究の時間を活用した「１８歳選挙権」関連講座の実施。	年2回の授業公開、ICT研修等に取組んだ。生成AI等の進歩等にICT活用に不安感じる教員微増。千代田区立九段中等教育学校、42TOKYO、デジハリ大等へ視察実施。今年度から本格実施した探究活動では大学による支援を受けるなど充実させた。主権者教育モデルプラン策定Pにおいて、桑名市活性化等に向けた生徒提言実施。図書館利用は進んでいる。図書委員による謎解イベント2回実施。 【指標結果】 →86.9% →70% →89時間	◎
地域から信頼される、安全・安心な教育環境の構築	(1)授業や学校行事の公開、学校施設の地域開放、PTAや地域の方々と協働して行う挨拶運動や美化活動などをとおして、保護者や地域との連携を一層深める。 (2)現在および将来に直面する災害に対して、地域と連携して防災教育の充実と防災意識の向上を図る。 (3)学校説明会・パンフレットの充実等により、桑名西高校の魅力を中学校教員や中学生や保護者に発信する。 (4)教育公務員として法令等を常に遵守するとともに、高い倫理観と崇高な使命感を持って職務に専念し、不祥事	授業公開2回、文化祭や挨拶運動、防災教育でPTAと協働し、連携を強化した。 探究活動の取組を学校説明会等で発信した。	

	根絶に向けて職員会議等で討議し、職場全体で取り組んでいく。 (5)HP 更新回数を増やし広報活動を進める。 【活動指標】 ・HP やきずなメール、学年通信等による積極的情報発信。マスメディアへの情報提供。 ・地域から参加要請があった各種行事への積極的参加の推進。 ・中学生に親しみやすく、わかり易い学校パンフレットの制作。 ・将来社会の一員として地域から信頼され期待される人間形成を目指すために、「人権・環境・平和」等についての学習を深める。 【成果指標】 ・ＨＰの更新回数　４回以上／月平均（３回） ・防災訓練や防災研修会実施回数　３回／年（３回） ・学校説明会および学校見学会に参加して本校の様子がよくわかったと回答した中学生の割合 　９５％（９６．０％） ・外部人材の講演　７回以上　（１０回） ・桑名西高校がメディアに取り上げられた回数 　５回以上（４回）	不祥事はなかったが、主要テーマとして引き続き取組んだ。見やすいHP を目指してデザインを一部改良した。 【指標結果】 →平均３回 →３回 →９６％ →２３回 →７回	
キャリア教育の充実	(1)大学入学共通テストや一般入試を視野に入れて受験勉強に取り組むとともに、国公立大学入試まで粘り強く勉学に励む生徒の増加を図る。 (2)生徒の多種多様な進路希望が実現できる、きめ細かいサポート・支援を図る。 (3)一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育む。 (4)キャリア教育を推進するため、総合的な探究の時間を改善し、より生徒が興味・関心のある内容を探究できる体制を構築する。 【活動指標】 ・学期に１回、修学クラスをアピールする広報の発行 ・大学進学希望者の大学入学共通テスト・一般入試受験を促進。 ・就職希望者への面談の充実を図る。 ・進路講話、進路ガイダンス（入試に向けて・学部学科選択・文理選択）、卒業生講話の実施。 ・校外模試（全統模試・進研模試・看護模試・公務員模試）、自己診断テスト（スタディーサポート）の活用。 ・１日看護体験、保育体験、作業療法士体験等の奨励。 ・改善された総合的な探究の時間をとおして、地域課題等より身近な課題について解決する力の醸成し、自ら進んで進路選択が図られるよう、学年進行で取り組みを進	担任、キャリアガイダンス部による年間を通した面談、出願指導を実施。進路検討会で各生徒の進路検討実施。年々、四大希望者が増加、短大、就職が減少した。 1 年修学クラスで校外学習を実施。 1 年生はみえ未来探究フェア 2025（企業展）参加、2 年生は大学研究室訪問による探究活動指導を受け、年度末に校内発表を実施した。	◎

	める。 【成果指標】 ・自己の進路希望実現に向けて最後まで粘り強く努力したと回答した生徒の割合　９５％（９３．８％） ・探究活動が進路選択に有効であったと回答した生徒の割合９０％　（８６．４％）	【指標結果】 →９２．９％ →８０．８％	
学校生活の充実	(1)「挨拶・清掃・身だしなみ　MM」を目標に掲げ、生徒自らが進んでより快適な学校生活が送れるよう支援する。生徒や教職員が積極的に挨拶を交わす関係を築くことで、他者を思いやり、自らを大切にする態度を育て、人間関係を育む。 (2)美化意識の向上、校内美化・清掃活動に積極的に取り組む。また自転車運転に対するマナーを向上させ、交通事故等の未然防止に努める。 【活動指標】 ・いじめ防止、薬物乱用防止、交通安全（特に自転車事故の防止）、ネットモラル等の講演会の実施、年間を通した登下校見守りの実施。 【成果指標】 ・自ら進んで挨拶をすることができると回答した生徒の割合　　９５％（９５．０％） ・校内美化・清掃活動に努めることが出来たと回答した生徒の割合　９５％（９５．５％）	全体を通して挨拶ができ概ね落ち着いた学校生活が維持され、生徒指導上の問題は少なかった。 登下校時の自転車事故が数件発生し、安全教育の強化が課題である。 桑西カフェを継続し、３月に生徒総会を実施した。 【指標結果】 →９５．９％ →９４．９％	◎
心と体の健康の充実	(1)高校生に必要な健康に関する知識の獲得と意識の高揚を図り、自己管理力をつける。 (2)早期の問題発見・解決に向けて、担任・学年団・分掌・スクールカウンセラーとの連携を密にし、教育相談および特別支援教育の充実を図る。 (3)生徒の様々な課題に対応するため、スクールソーシャルワーカーや発達障害支援員等と共に支援を行う。 【活動指標】 ・「保健だより」を年間１２回以上発行 ・「いのちの教育」について生徒対象講演会を年１回実施。 【成果指標】 ・自分自身の心と体の状態を理解することができたと回答した生徒の割合 ９０％（８８．８％）	保健だよりの発行や講演会等、概ね計画どおり実施した。 教育相談件数は６０件から９２件へ増加しており、ＳＣ・ＳＳＷ等との連携強化が必要である。 【指標結果】 →９１．３％	

改善課題

・今年度から２学年において本格的に始まった地域の課題解決を目指す探究活動は、３学期に全体発表を終え一定の成果が見られた。一方で、各グループの取組内容をさらに深化させ、課題解決の質を高めていくことが今後の課題である。
・社会において生成AIの活用が急速に進む中で、生成AIの正しい使い方や効果的な活用方法について、生徒に適切に指導していくことが求められている。

・特に難関大学を目指す修学クラスにおいては、上級学年で主体的に受験勉強に取り組めるよう、校外学習や外部講師による講演会、探究活動のさらなる充実を図る必要がある。
・SC、SSW、発達障がい支援員等の活用は進んでいるが、教育相談件数は年々増加しており、生徒の悩みや課題の複雑化・多様化がうかがえる。関係機関との連携を一層強化し、早期対応に努める必要がある。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1)教科会を定例化し、授業改善・評価方法の検討と授業力向上に取り組む。 (2)校内研修会の充実および外部研修等の成果を全職員で共有する。 【活動指標】 ・相互授業見学を１学期、２学期に各１週間実施。 ・各部主催の教職員研修を各年１回実施。 【成果指標】 ・授業改善が進み、生徒にとって満足度が高い授業が実施できたと回答した教職員の割合 ８０％（７６．２％）	概ねできている。各学期に教職員研修を実施。教育課程実践検証協力校事業として、国立教育政策研究所調査官を招聘し、「公共」の授業研究および研究協議を実施した。 【指標結果】 →７８％	
組織力の向上	(1)教職員間の対話を重視するとともに、特別支援教育推進委員会や学年会・教科会等で、生徒に関する情報共有を密にするとともに、学年・分掌の協力体制を強化していく。 (2)「運営委員会」等において、組織運営及び本校の魅力化・特色化等について継続して検討していく。 【活動指標】 ・組織力の向上に向けた積極的な情報共有と改善に向けた様々な提案 【成果指標】 ・校務運営に積極的に関わることができたと回答した教職員の割合　８５％（８８．１％）	特別支援教育推進委員会等を通じて生徒情報の共有を図り、分掌間の連携強化に努めた。信頼向上委員会で実施したアンケート結果を踏まえ、各分掌において業務の精選・効率化を進めた。 【指標結果】 →８９％	◎
働きやすい職場づくり	(1)すべての教職員が、業務の精選・効率化を推進し、教職員のライフワークバランスの向上を目指す。 (2)あらゆる機会を通じて労働時間の適正化に努め、定時退校や有給休暇の計画的取得、ライフステージに応じて必要となる休暇取得などを推進する。 (3)互いに職場の仲間を思いやり、教職員一人ひとりが、	生成AIの活用を含め業務の効率化を進めたが、時間外在校等時間の縮減には至らず、引き続き	◎ ◎

	相手の意見や考えを尊重しながら、自由闊達に意見を言い合える風通しの良い職場環境づくりに努める。 【活動指標】 ・定時退校日（月２回）を実施し、設定した日の定時に退校できる職員の割合９０%以上を目指す。（９３．４%） ・部活動休養日を週１日以上設定し、計画通り実施できた部活動割合１００%を目指していく。（１００%） ・会議の所要時間を６０分以内にする割合８０%以上を目指す。　（５５．７%） 【成果指標】 ・自分自身のライフワークバランスが向上したと回答した教職員の割合６０%以上。 （６９%） ・休暇（病気休暇を除く）を一人平均年１５日以上取得。 （１９．２日） ・時間外在校等時間が月４５時間超職員の年間延べ人数 ０人（１０３人以上） ・時間外在校等時間が年３６０時間を超える教職員数 ０人（１８人） ・一人当たりの月平均時間外在校等時間を３０時間以下 （２６.１時間）	働き方改革の推進が必要である。 【指標結果】 →８６% →１００% →７９．４% →５６% →１６日 →１４１人 →１７人 →３１時間	
改善課題			
時代や地域のニーズ、少子化の進行、私学授業料無償化の影響等を踏まえ、本校のさらなる特色化を進める必要がある。そのため、新たな取組を推進できる体制を整備するとともに、教育のDX化や生成AIの活用による業務の効率化、業務の精選を一層進める。また、これにより教職員の時間的余裕を確保し、授業準備や課外授業、部活動指導の充実、さらには研修や生徒と向き合う時間の確保につなげることが求められる。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・文化祭、生徒総会等、生徒が主体的に活動する行事が多いことが桑西の良いところだと感じる。今後も大切にしてほしい。 ・多くの学校で探究学習が調べ学習で終わっていることが多いように思う。ネット上で調べて終えるのではなく、地域へ出向いて大学や専門機関との連携や、フィールドへ出て調査するなど探究活動をさらに深堀できるとよい。 ・前期入試の活用など特色ある生徒を確保していくこともよいのではないか。 ・生成AIの活用について不安に思う保護者が理解できる説明が必要。

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・生成AIの活用について研究を継続し、探究活動の深化や進路指導への効果的な活用を図るとともに、情報モラル教育の充実を進める。 ・修学クラスにおいては、独自の校外学習や探究活動の縦割り的な学びを推進し、学力の伸長にとどまらず、自ら課題を設定し深く探究する姿勢や、高い志を持って将来を切り拓く力を育成する。 ・生徒が主体となる活動の機会をさらに拡充し、自己肯定感を涵養するとともに、主体性や協働性を育む教育を推進する。

学校運営についての改善策	・教育のDX化および生成AIの活用を一層進め、業務の効率化と精選を図ることで、教職員の時間的余裕を確保し、授業準備や各種指導活動の充実につなげる。 ・働き方改革を継続的に推進し、時間外在校等時間の縮減を図るとともに、教職員が健康で意欲的に働くことができる職場環境の整備に努める。